

2016年度「栄養経営士」資格認定基礎講習、東京会場からスタート

フードサービスから栄養管理へ—— 一人ひとりがマインドチェンジし 管理栄養士の未来を切り拓け！

2016年度の「栄養経営士」資格認定基礎講習会場受講（以下、基礎講習）は、東京、大阪、福岡の全国3会場で、7月3日（日）、30日（土）、31日（日）にそれぞれ開催される。
日本栄養経営実践協会の宮澤靖代表理事（近森病院臨床栄養部部長）が、栄養経営士に求められるスキルや、それを身につけるための方法などについて、1日をかけて講義する。基礎講習を修了することが、「栄養経営士」資格認定試験の受験要件となる。
本稿では、東京会場（東京都千代田区・大和ハウス工業東京本社会議室）で7月3日（日）に開催された基礎講習の様子をレポートする。

管理栄養士も治療に 大きな役割を担う

「皆さんは、加算を取るために、業務をしていませんか？」

宮澤代表理事は、基礎講習冒頭のオリエンテーションで参加者に問い掛けた。

「皆さんは、患者さんを治療しているという意識を持っていますか？」

管理栄養士は、栄養指導点数などの加算を取るためではなく、患者や利用者の栄養サポートを行うために働いている。いつ何時も、この目的を忘れてはならないという強烈なメッセージである。
「患者の栄養サポートを行い、治療につなげる」という管理栄養士の

としての誇りを持って働くこと。このマインドチェンジが何よりも重要であると、まず最初に参加者に訴えた。

病棟に常駐を！ 進化する管理栄養士業務

「管理栄養士は、病棟に常駐すべき」というのも、今回の基礎講習における重要なメッセージであった。

「必要な時にだけ病棟に行く病棟担当はもう古い。これからは、管理栄養士が病棟に常駐する時代」と言い切った宮澤代表理事。なぜ、その必要があるのだろうか？

1990～2000年にかけて、医療経営のビジネスモデルは大きくシフトチェンジした。90年代までは医師、

看護師中心の少数精鋭

医療であったが、21世紀

に入り、多職種による

多数精鋭のチーム医療

へと変化を遂げた。この

背景には、高齢化の急

激な進展という社会変

化がある。慢性疾患を

抱えた高齢者を支える

医療が中心となり、医

師や看護師だけで担う

のは難しくなってきた

のだ。医師、看護師、メ

ディカルスタッフの専門

性が細分化し、それ

と同時に医療の高度

化、診断治療の標準化

が著しく進んだ。

管理栄養士の業務も

また、大きく進化した。

これまでの、食事とい

う「もの」を売ることが

中心であったが、現在は

在宅復帰を促進するた

めの栄養サポートとい

う「付加価値」を売ること

参加者の声

※修了レポートより抜粋。

経営者や医師から言われたままに動くのではなく、専門職としてのプライドを持ち、時には自らアプローチをしていかなければならないと思いました。

管理栄養士としての志と医療人としてのプライド、患者さんを幸せにし、希望を叶えられるようなチーム医療の一員として、日常臨床業務に努めていきたい。そのために、まずは、すべての業務を洗い出します。

管理栄養士は1人仕事が多いので、組織というものに慣れていないのが本音です。しっかりビジョンを持って、10年後を見据えた仕事内容に切り替えていこうと、今日、強く感じました。

「知らないことを、わかったつもりになっている」ことがいかに多かったか、反省です。

「環境は与えられるものではなく、自らつくっていくもの」という先生の言葉が心に残りました。

医療チームと共存できる知識を付け、指示などに疑問を持ったら積極的に話していかないといけないと思いました。

目先のコストしか見ていませんでした。総務からコストのことばかり言われ、医療の質、そして何より患者さんの気持ちを考えていなかったことに気づかされました。

マネジメントと臨床のできる管理栄養士になり、後輩を指導していくことが今後の課題だと思いました。

引きこもりを卒業して、病棟常駐、食事のことは任せてもらえるよう、力を合わせてやっていこうと思います。患者さんが第一！それを胸に、気合いを入れ直します。

当院では昔ながらの栄養業務が根づいており、ビジョンのない運営が続いています。一時は退職も考えましたが、今は自分が変えていくことを考え、再スタートする気持ちで業務改革を行っていきたいと思っています。

患者や利用者を診ているのではなく、病名とそのあとに続く書類作りのことばかり考えていました。先輩たちからは「管理栄養士は雑用士」と教わってききましたが、これからは目を向ける方向を変えていかなければならないと強く感じました。

臨床業務だけでなく、給食管理のマネジメントもできていない。まずは業務整理をしながら、1つでも結果を出していきたいです。10年後は各病棟に管理栄養士を配置して、入院～退院後まで患者さんの栄養サポートをできる部署を目指します。



さまざまな病院・施設に勤務する管理栄養士123名が受講した東京会場

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう！

第3回「栄養経営士」資格認定試験

2016年11月20日（日）

- 受験料：8,000円（税込）
- 試験会場（予定）：札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
- 受験資格：管理栄養士（実務経験2年以上）かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

※エントリー開始日等は、決定次第、当協会ホームページにて掲載いたします。

試験に関する
お問い合わせ・
資料請求はウェブで

<http://nutrition-management.jp>

または

🔍 栄養経営士

検索





「われわれにしかできない仕事をしよう」と語り掛ける宮澤靖代表理事

◆基礎講習タイムスケジュール◆

- 10:00~10:50
オリエンテーション
「栄養経営士」に必要な能力について
- 11:00~11:40
講義1
院内・施設内における栄養部門の現状分析
- 11:40~12:20
講義2
目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
- 12:20~13:20 昼休み(ランチョンセミナー)
- 13:20~14:00
講義3
業務の質を高めるためのアウトカム分析
- 14:00~14:50
講義4
「栄養経営士」に求められる教育と人事能力／
適材適所の組織マネジメント
- 15:00~16:30
症例検討 病態の把握能力
- 16:30~17:00
修了レポート作成・提出

管理栄養士にしかできない仕事で結果を！

「管理栄養士の業務が大きく変化しているにもかかわらず、食数計算や献立チェック、委託業者の監督管理などの従来業務に追われ、臨床栄養管理業務を疎かにしている現状が、

それが、管理栄養士が病棟に常駐すべき最大の理由である。

とが役割となった。ここで問題となるのは、その業務変化をいまだに理解、実践できていない管理栄養士が多数存在することだ。

厨房横の事務所で電子カルテを眺めているだけでは、患者本位の栄養サポートを行うことはできない。管理栄養士自身が病棟に行き、自分の目で患者を観察し、最適な栄養管理を検討していかねばならない。これこそが、管理栄養士が病棟に常駐すべき最大の理由である。

病名を見るのではなく患者を診る目を養う

最後の1時間半は、参加者とともに、胆のうがんが疑われる84歳の患者の食事検討を進めた。

その中で宮澤代表理事は、「管理栄養士の多

くが『胆のうの病気であれば低脂肪食』というように、病名と数値による思い込みを持っていきます。しかし、本当にそれでよいのでしょうか？ 『この病気なら、この食事』というように律に対応するのはなく、実際に患者を診て検討を重ね、患者に本当に適した栄養管理を実践すべきなのです。患者を守るために栄養のプロとしての意見を主張できるようにするには、臨床知識を学ぶ必要があります」と指摘した。

栄養経営士とは、マネジメント能力と臨床能力を併せ持ち、目指すべきビジョンがある管理栄養士。このようなスキルを持った栄養経営士が増えること

で、管理栄養士全体のレベルアップにつながる。基礎講習に参加した皆さんにはぜひ、11月の栄養経営士試験にトライしてほしい。本協会では、各地でマネジメント能力や臨床能力のスキルアップや情報交換ができるよう、全国に支部を立ち上げ、さまざまな勉強会や研究会を開催していきます。栄養経営士として、10年後も生き残れる管理栄養士の輪を広げていきましょう」と呼び掛けた。



昼休みには、書籍や介護食メーカー、介護食器メーカーのブースも盛況となった

第3回「栄養経営士」資格認定試験は11月20日(日)。今回の参加者の中から、何人の栄養経営士が誕生するのだろうか。参加者の意欲が栄養経営士への挑戦に向かい、管理栄養士の明るい未来を切り拓いていく力へと結実することを、大いに期待したい。

支部NEWS 関東支部

第3回関東支部研究会「医療職との連携における栄養経営士の役割」開催

栄養経営士の仲間と共に考え、レベルアップを目指す場に！

医師と上手にコミュニケーションを取るためのポイントとは？

日本栄養経営実践協会関東支部は、毎月第3木曜日の19時30分から定例で、支部研究会を開催しています(会場:株式会社日本医療企画もとみやセミナールーム)。栄養部門にかかわるさまざまな課題を地域で解決できる人材の育成と、問題意識を持った栄養経営士たちのネットワークづくりを目的に、他支部に先駆け、本年4月からスタートしました。

本研究会では、講義で学んだあと、受講者同士でグループディスカッションを行う時間を設けています。講義内容の理解を深めるほか、それぞれが抱える悩みや日常業務での課題などを話し合うことで、栄養経営士同士、新たなネット



講師の中濱氏と参加者が一体となり、和やかな雰囲気で行う講義

ワークを築く機会となっており、毎回、たいへん盛り上がります。

6月16日(木)に開催した第3回関東支部研究会は、「医療職との連携における栄養経営士の役割」がテーマ。関東支部理事で、がん研有明病院栄養管理部副部長の中濱孝志氏を講師に迎え、医療職(主に医師)との上手な付き合い方などをお話いただきました。

講義の中で中濱氏は、「第一印象」の重要性についてふれ、「表情、声の大きさ、服装、髪型などが、相手に与える印象は大きい。それらを工夫して、相手が話しを聞きやすい雰囲気をつくる」ことが大切だと解説しました。

また、医療職と上手にコミュニケーションを取るためには、専門的な知識を向上させることも必要だと力説。さらに、患者やその家族とのコミュニケーションの取り方や、同じ部署内のメンバーとの連携の取り方にも言及しました。

講義終盤には、病床数700床のがん研有明病院の栄養管理部の事例を交えて、医療職とのコミュニケーション方法やプレゼン方法を具体的に解説。受講者からは、「院内でのコミュニケーションが大切だと改めて感じた」、「身だしなみなど、業務中あまり意識していなかったことが重要なのだと気づきました」などの声が上がりました。

グループディスカッションでは時間を忘れて白熱した意見交換が続く

講義後のグループディスカッションでは、中濱氏が症例を提示し、それに対してどの部門がどのように関わり、連携して治療を行うかを話し合い、グループごとの発表が行われました。

ディスカッションはその後、参加者の日常業務での問題点や悩みの共有、栄養経営士同士の情報交換の場として大いに盛り上がり、終了時間を過ぎてても熱い意見交換が続きました。

7月の第4回関東支部研究会は、「介護施設の栄養部門の連携推進に向けて」をテーマに、特別養護老人ホームマイライフ徳丸主任管理栄養士の久保陽子氏を講師にお招きする予定です。

支部研究会に参加することで、栄養経営士の輪を広げ、新たな一歩を踏み出してみませんか？ 関東支部事務局一同、皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。



職場は違っても共通する課題が多く、グループディスカッションでは熱い情報交換が続いた

九州支部始動!

九州支部支部長からメッセージ

西から全国へ旋風を巻き起こそう!

セミナーレポート

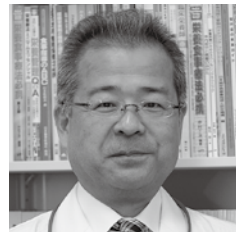
九州支部いよいよ始動!
栄養経営士誕生記念セミナー

6月11日(土)、日本栄養経営実践協会九州支部設立の第一弾イベントとして、栄養経営士誕生記念セミナーをリファレンス駅東ビル(福岡市博多区)で開催した。

基調講演では、社会医療法人製鉄記念八幡病院理事長の土橋卓也氏が「栄養士が経営にもたらす影響と今後の課題～病院理事長、栄養管理部長、医師としての提言」をテーマに講演。土橋氏は経営者・医師として管理栄養士に求めることを挙げ、「これからの地域包括ケアシステムには管理栄養士の関わりは必須です。施設内にとどまらず、社会貢献を考える管理栄養士になってください」と参加者を激励した。

第二部では、「『栄養経営士』とは何か?～栄養経営士が組織の中で存在感を高めるための将来像、理想像をさぐる」をテーマにシンポジウムを行った。座長は日本栄養経営実践協会九州支部支部長の片桐義範氏が務め、シンポジストには、日本栄養経営実践協会理事の山下茂子氏、同会九州支部理事の篠崎彰子氏が登壇した。

その後に行われた懇談会では、現状の悩みや目標を栄養経営士一人ひとりが発言し、活発な議論を展開した。



日本栄養経営実践協会
九州支部支部長
片桐 義範氏

日本栄養経営実践協会では、全国に地域支部を設け、それぞれの支部における研究会等を通して実践的な活動事例の共有と栄養経営士のネットワーク化を推進している。2016年6月、関東支部に次いで発足、活動をスタートさせた九州支部の支部長である、片桐義範福岡女子大学教授から、支部活動への期待や栄養経営士に向けたメッセージをいただいた。

テクニカルとノンテクニカル
両方のテクニクを身に付けよう

コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ等を含めた部門運営を担う人材とならなければなりません。そのため、施設内の他部門との連携が重要なポイントとなります。

日本栄養経営実践協会九州支部の活動が始まりました。栄養経営士が九州でどのような役割を担っていくのか、これから本格的な議論が開始されます。

栄養経営士はテクニカルスキルだけでなく、ノンテクニカルスキルも必要です。臨床の知識や技術に加え、コ

成果を出すだけでなく
外部へのアピールが重要

すべての栄養経営士のために、九州のすべての栄養経営士は業務等で悩んでいる一人の栄養経営士のために。そして、栄養経営士はすべての施設の栄養管理向上のために「だと私は考えています。その実現のために九州支部の栄養経営士の組織化と情報交換が不可欠になるでしょう。

施設内でも、管理栄養士をはじめとしたチームで患者さんに介入することで最適な栄養効果が生まれ、治療に貢献できます。そして、その患者さんの姿を見ることで、また頑張ろうという活力がわき、組織全体が強くなっていくものだと思います。

栄養経営士が医療・介護施設で注目してもらうためには、栄養管理だけでなく、人事管理や人材教育、コスト管理等さまざまな分野において、実施した結果を評価することが重要です。そしてその評価結果を他部門に公表しなければなりません。

常に新しい情報をキャッチしながら
西から風を送ろう!

栄養管理部門に求められるものを「ドラスモンのポケット」のように提供できる人材が、私の考える栄養経営士の姿です。

できていない時にどうすればよいのかを考え、計画・調整し、実践し評価すること。そのためには、常に新しい情報をキャッチする力を身に付けておきましょう。

まずは勤務している施設が栄養管理部門に何を求めているのかを把握したうえで、栄養管理部門の課題や問題点を改善し、どのように改善したのかを示すことがはじめてみてはいかがでしょうか。はじめの二歩を踏み出してみましよう。

問題は解決の視点は、「どうすれば患者さんの利益につながるか」です。九州の栄養経営士全員で「考え、行動し、それを議論して発信していく」という流れを作り、全国へ風を送っていかねばと思っています。

幅広い視点で、活発に議論できる九州支部にしていきたいと思えます。

栄養経営士に必要なマネジメントを学ぶ研究会、ご参加お待ちしております!

日本栄養経営実践協会

関東支部研究会 開催

日本栄養経営実践協会関東支部では、栄養部門にかかわる多様な課題を地域で解決できる人材の育成と、問題意識を持った栄養経営士同士のネットワークづくりを目的として、毎月第3木曜日に定例の研究会を開催いたします。講義で学び、ディスカッションにより理解を深め、交流を通じて新たなネットワークを築ける場としてぜひご参加ください!

第4回 7月21日(木) 19:30~21:00

介護施設の栄養部門の連携推進に向けて(仮)
大久保 陽子氏 (特別養護老人ホームマイライフ徳丸主任管理栄養士)



受講料

会員:各回1,000円(税込)
一般:各回3,000円(税込) ※軽食付き

会場

株式会社日本医療企画もとみやセミナールーム
(東京都千代田区神田東松山下町17 もとみやビル3階)

【お問い合わせ・お申し込み先】 一般社団法人日本栄養経営実践協会関東支部(日本医療企画関東支社内) TEL03-3256-2885(担当:梅田)

栄養経営士が知っておきたい！ 栄養・食事 トピックス掲示板

栄養分野に関する最新の情報・トレンドにアンテナを張っておくのは、栄養経営士にとってとても重要なこと。知っておきたいニュースや行っておきたいセミナー情報をお知らせします。

好評既刊

熱中症、脱水症に役立つ経口補水療法ハンドブック 改訂版 —脱水症状を改善する「飲む点滴」の活用法—

経口補水療法(ORT: Oral Rehydration Therapy)とは、脱水症を改善できる治療法のこと。 “飲む点滴”とも言われています。この経口補水療法の理論から臨床現場や家庭における活用方法までを具体的に解説。実践的でわかりやすいと好評をいただいています。暑くなるこれからの季節、病院・施設・在宅など、あらゆる場面で熱中症・脱水症の危険があります。小児や高齢者と関わる職業に従事している方には特に必読の1冊です。

○著者：谷口英喜(医学博士、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科教授、「かくれ脱水」委員会副委員長)

○体裁：A5判、並製本、172ページ

○ISBN：978-4-86439-164-1

○価格：2,160円(税込)

○発行：株式会社日本医療企画



宮澤靖代表理事 セミナー情報

第54回日本医療・病院管理学会学術総会 創造的破壊～医療の質の向上と効率化の 同時達成を目指して

保健・医療・福祉分野における諸問題を多面的に考究し、社会の進歩と人類の福利に貢献することを使命とする日本医療・病院管理学会。今年で第54回を数える学術大会が9月17・18日の両日、東京医科歯科大学M&Dタワー鈴木章夫記念講堂において開催されますが、この度、宮澤靖日本栄養経営実践協会代表理事が18日(日)のランチョンセミナー(日清オイログループ株式会社協賛)に登壇することになりました。病院経営の第一人者が集まる場で栄養経営についての講演が行われることは、大きなインパクトになります。一般参加も可能ですので、ご興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

○日時：9月17日(土)、18日(日) ※宮澤代表理事のセミナーは18日(日)となります

○会場：東京医科歯科大学M&Dタワー鈴木章夫記念講堂

○運営事務局：株式会社プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9階

TEL:03-5520-8821 FAX:03-5520-8820 Mail:jsha54@procomu.jp

○特設サイト：<http://www.procomu.jp/jsha2016/>

ヘルスケア・レストラン 特別セミナー

摂食嚥下障害の栄養指導と 嚥下調整食の実践セミナー

平成28年度の診療報酬改定で、がん摂食嚥下障害、低栄養の方に対する栄養指導が算定可能となりました。しかし、多くの管理栄養士の方は具体的にどのように栄養指導をすればいいのかわからない不安に思っているのではないのでしょうか。特に摂食嚥下障害については、食事の物性調整についての指導も必要となり、病態と調理の両方の知識が求められることとなります。本セミナーは管理栄養士、医師、歯科医師を講師に招き、摂食嚥下障害の病態から嚥下調整食の調理のポイントまで解説していきます。

○日時：8月21日(日) 13:00～16:30

○会場：CIVI研修センター秋葉原 D205ホール(千代田区神田須田町1-5-10)

○内容：講演①在宅における摂食嚥下障害の病態と栄養指導

講師：中村育子 先生(福岡クリニック在宅栄養課課長)

講演②摂食嚥下障害における口腔機能評価と栄養管理

講師：五島朋幸 先生(ふれあい歯科ごう院長)

講演③摂食嚥下障害とサルコペニアに対する栄養サポート

講師：野本達哉 先生(永生病院リハビリテーション科医師)

○参加費：日本栄養経営実践協会会員 3,000円(税込)／一般 5,000円(税込)

○定員：200名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます

○主催：ヘルスケア・レストラン

○協賛：アサヒグループ食品株式会社

★詳細はホームページ(<http://www.jmp.co.jp/seminar/restaurant/enge/>)にてご確認ください。

協会事務局より

『「栄養経営士」公式ガイドマンガ』絶賛配布中！

本協会では、「栄養経営士」を理解していただくための案内として『「栄養経営士」公式ガイドマンガ』を配布しております。タイトルは『「栄養経営士」が創る新しい未来の物語』。主人公は民間の医療機関に勤める管理栄養士・高梨香織。希望に燃えて就職して3年目、理想と現実とのギャップに苦戦中の彼女は自分や周りを変えていこうと奮闘しますがなかなかうまくいきません。そんなときに「栄養経営士」という資格と出会い——というストーリーとなっています。

ご覧になりたいという方、また「周囲に配りたい」というご希望などございましたら、下記のアドレスへ「マンガ希望」とタイトルをつけ、認定登録番号、お名前、御社名、所属部署、肩書き、送付先住所、電話番号、そして必要部数をご連絡ください(ご希望の部数につきましては、ご連絡をいただいた段階で調整させていただきます場合がございます)。

○お申し込み jimukyoku@nutrition-management.jp



マネジメントする栄養経営士のためのスキルアップマガジン創刊！

栄養経営エキスパート

管理栄養士の方々は学会や勉強会に参加し、知識の習得に努めています。しかし「その習得した知識をどう活かせばいいのかわからない」「どうすればその知識を患者や利用者に還元できるのかわからない」と悩んでいるのではないのでしょうか？本誌は「その先の進み方」つまり、臨床栄養管理の結果をしっかりと出せる管理栄養士のマネジメントリーダーの育成をめざした雑誌です。

『栄養経営エキスパート』の4つのポイント

- ①病態について理解できます
- ②栄養管理のアウトカムの示し方がわかります
- ③栄養管理をベースにしたマネジメントが学べます
- ④リーダーとしてめざすべきゴールを考えられます

●発行：株式会社日本医療企画 ●隔月刊誌・年6回刊行 ●A4判 ●定価：1,620円(税込)

割引価格でご購読いただけます！



好評発売中!!

特集予定

第2号(8月8日)
がん周術期の栄養管理と
チームマネジメント

第3号(10月8日)
経口移行のチームアプローチ

第4号(12月8日)
サルコペニア評価と介入

くわしくは www.jimukyoku.jp 栄養経営エキスパート

検索